続・教育データを学習データに変えるには？　「生徒の気づきと学び」を最大化するPJ第24回（2020/10/7）

対話の内容

EBPM(エビデンスに基づいた政策立案)やGIGAスクール構想によって、教育現場におけるデータ活用への期待が広がっています。今回は教員や生徒にとって望ましいデータの活用法は何かという問題意識のもと、eポートフォリオをテーマにして全国の約40名の教員で対話しました。

「生徒の成長につながるポートフォリオ活用とは？」
「生徒自身が主体的に振り返るためにはどうすればよいか？」
「どうすれば振り返りの中で深い思考が身につけられるようになるか？」
「どうすれば教員がポートフォリオの効果を感じられるか？」

上記のような問いをもとに、気づきの多い対話が行われました。

→

今回のキーワード

目的は「公開」ではなく「自身の成長」

ポートフォリオの価値は、蓄積したり、振り返ることにより、生徒が自ら成長していくことにある。ポートフォリオの公開が目的化しないよう、まずはスモールステップで始めながら、その過程で生徒が楽しさを感じることが重用。

生徒の「学びの一般化」をめざす

振り返りを通じて学ぶためのポイントは、出来事を一般化して考えること。教員は生徒に伴走し、問いを立てたり、図示化・抽象化する役割を担う。

「知る」楽しさから「問う」楽しさへ

生徒はつい答えを求めてしまう。ポートフォリオを通じて試行錯誤するプロセス自体を楽しめるようになりたい。教員には答えをすぐ教えるのではなく、答えのない問いに一緒に向き合い、考える姿勢が求められる。

－ 話題提供　本PJメンバー　三田国際学園 大野智久先生 ＆ 山本 花香さん(高校3年生) －

・ポートフォリオの目的には「自分の価値を示す」「自己の成長につなげる」という2種類がある。後者を行うためにはPDCAが重要である。
・PDCAサイクルを回すために①経験したこと→②感じたこと→③一般化(他に当てはめる)→④これからすること、という型で振り返りを行っている。
・(山本さんの実践と感想) “Youtubeの広告からゲームをダウンロードしてしまう→なぜすぐゲームをダウンロードするのか→あと一歩でクリアできるのに、操作者はそれに気づいていない状況→「自分にもできそう」は行動力につながるという気づき→プレゼンに誰にでも気軽にできる提案を行うようになった”
「ポートフォリオを書くようになってから、なんでも意味を見出したり、些細なことでも疑問に思えるようになって、前よりも生活が楽しくなった」

－ 教員の声 －

・振り返りを要求されると、真面目なことや、答えらしきものを探して書くようになってしまう、生徒同士で振り返りをする機会があるとよいと思った。(東京)
・教員側がポートフォリオの大切さを実感することが大切。自分も振り返りの価値を実感して、それを生徒に伝えたい。(神奈川)
・「あれとこれは似てるね？」「これ、前の〇〇と同じじゃない？」といった教員からの声掛けが重要だと感じた。(東京)
・教員は「知る」ことの楽しさは味わっているが「問う」ことの楽しさは味わっていない。だからその重要性を生徒に伝えられないのだと感じた。(長野)

「生徒の気づきと学び」を最大化するPJアーカイブはこちらから：https://berd.benesse.jp/publicity/

©生徒の気づきと学びを最大化するプロジェクト